

2019年11月7日 ドイツ・ミュンヘン

# 2019年度 第4四半期決算

期間: 2019年7月1日～9月30日

## 第4四半期業績は好調 あらゆる面で通期業績見通しを完全に達成

「2019年度は世界経済の低迷が一層鮮明となりましたが、そのような中、当社は非常に好調な第4四半期業績を達成し、シーメンスの業績向上意欲を再び明確に示すことができました。シーメンスはあらゆる面で、通期業績見通しを完全に達成しました！ Vision2020+戦略コンセプトが軌道に乗り始めました。とりわけ、進展が見られたのは予定していた最優先課題であるシーメンス・エネルギーの株式公開で、順調に進んでいます。グローバルのシーメンス・チームは、2019年度、またしても素晴らしい仕事ぶりを見せてくれました。好調な業績に加えて、シーメンスは、当社の歴史において最も大きな変革を首尾よくスタートさせました。私は、この素晴らしいチームを誇りに思うとともに、新たに始まる年度の当社の任務をお伝えしていけることを楽しみにしています。」  
— ジョージ・ケーザー、シーメンスAG社長兼CEO

### 2019年度通期

- 受注は7%増の980億ユーロ、売上は5%増の868億ユーロ。出荷受注比率は、1.13。
- 為替の影響およびポートフォリオ効果を除く比較可能ベースで、受注は6%増、売上は3%増。インダストリービジネスの大半の事業が成長に貢献。
- インダストリービジネスの利益(Adjusted EBITA)は微増の90億ユーロ。Siemens Healthineersで明らかな増加。その他のインダストリービジネスの大半は、ほぼ前年度水準。
- インダストリービジネスの利益率は10.9%。退職関連費用5億ユーロを除くと11.5%で、11%～12%のガイダンスの範囲内。
- 純利益は前年度を下回り56億ユーロ。前年度は、会社保有のAtos SE株式のSiemens Pension-Trust e.V. への譲渡およびOSRAM Licht AG株式の売却に伴う大幅な非課税利益があった。基本1株当たり利益は6.41ユーロで、退職関連費用を除くと6.93ユーロとなり、ガイダンス範囲6.30～7.00ユーロの最高値付近。
- フリーキャッシュフローは前年度水準の58億ユーロ。
- 1株当たりの配当は、0.10ユーロ引上げ、3.90ユーロを見込む。

### 2019年度第4四半期

- 売上は前年同期比8%増の245億ユーロ、受注は高水準の前年同期からさらに4%増の247億ユーロ、出荷受注比率1.01を計上し、悪化する産業投資センチメントにもかかわらず、第4四半期は力強い成長率を達成。
- 比較可能ベースで売上は6%増、受注は2%増。
- インダストリービジネスの利益は大幅に増加し26億ユーロ。インダストリービジネスの利益率は11.3%。退職関連費用を除く利益率は12.5%。
- 純利益は15億ユーロ、基本1株当たり利益は1.63ユーロに増加。退職関連費用を除く基本1株当たり利益は1.90ユーロ。

## Siemens

(単位:100万ユーロ) A	第4四半期		増減(%)	
	2019年度	2018年度	実績	比較
受注	24,707	23,700	4%	2%
売上	24,522	22,606	8%	6%
利益 インダストリービジネス	2,641	2,208	20%	
内、退職手当	(284)	(407)		
利益率 インダストリービジネス	11.3%	10.1%		
退職手当を除く	12.5%	12.0%		
継続事業からの利益	1,468	659	123%	
内、退職手当	(321)	(527)		
純利益	1,470	681	116%	
基本1株当たり利益 (単位ユーロ)	1.63	0.69	136%	
フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業)	5,262	3,283	60%	
ROCE (継続事業と非継続事業)	11.1%	6.0%		

- 主に前年比で大型受注による大幅な受注額の増加により、堅調な受注が継続。スマートインフラストラクチャーおよびSiemens Healthineersの鮮明な成長とともに、ガス&パワー事業およびシーメンスガメサ・リニューワブルエナジー(SGRE)での大幅な増加が貢献。2018年第4四半期に大型受注により受注額が急増したモビリティ事業では大幅な減少。
- Siemens HealthineersとSGREでの2桁成長が牽引し、すべてのインダストリービジネスで非常に力強い収益成長。
- 出荷受注比率は1.01。受注残は、為替のプラスの影響を受け、過去最高の1,460億ユーロ。
- 為替のプラスの影響は、受注、売上ともに2ポイント押し上げる。ポートフォリオ効果は、前年比で売上にほとんど影響せず。
- 利益(Adjusted EBITA)は、SGREを除くすべてのインダストリービジネスで増加。最大の成長率を達成したのは、画像診断事業が牽引したSiemens Healthineersと、ソフトウェア事業が堅調であったデジタルインダストリーズ事業で、これら2つのインダストリービジネスは、為替のプラスの影響も追い風となった。ガス&パワー事業の利益は、主に前年比で低かった退職関連費用によりプラスに転換。
- インダストリービジネス以外でも力強い進展が見られた。特に、全社費用およびポートフォリオカンパニーで際立っていた。
- 純利益は、前年比で大幅に低かった所得税の恩恵を受ける。2018年度第4四半期は、モビリティ関連のカーブアウトに関連する所得税費用の影響を受けた。
- 運転資本の堅調な運営により、インダストリービジネスのフリーキャッシュフローは、2018年度第4四半期の31億3,500万ユーロから急増し、52億3,500万ユーロ。この増加の最大要因は、とりわけガス&パワー事業における顧客支払金の改善であった。
- 年金引当金および類似債務は、2019年9月30日現在、99億ユーロ(2019年6月30日現在は95億ユーロ)。この増加は主に、年金資産のプラスのリターンにより一部相殺されるものの割引率の低下による。
- ROCE(使用資本利益率):純利益の増加により上昇したが、平均投下資本の明確な増加により相殺。

### 将来の業績に関する見通し

このリリースには、過去の出来事ではなく、将来の業績に関する見通しや情報が含まれています。「期待する」、「予想する」、「意図する」、「計画する」、「信じる」、「模索する」、「推定する」、「予定する」といった言葉やその類義語は、将来の業績に関する見通しに該当する可能性があります。こうした見通しは、当社の現時点での予測と一定の前提に基づいており、したがって、特定のリスクや不確実な要素に左右されることがあります。シーメンスの事業活動、事業戦略、業績に影響を及ぼす要素はさまざま、その多くはシーメンスには制御不可能なものです。そのため、シーメンスグループの実際の業績、活動、成果は、こうした将来の業績に関する見通しの記述や暗示とは大きく異なる可能性があります。特定の不確実な要素には、景気や取引状況の変化、為替動向や金利の変化、他社による競合製品・技術の導入、シーメンスグループの新しい製品・サービスの不振、事業戦略の変化やその他のさまざまな要素の変化などが含まれます。万一、これらのリスクや不確実な要素が現実のものになれば、実際の業績は将来の業績の見通しの予想、確信、予測、期待、意図、計画、予測とは大きく異なる可能性があります。シーメンスは、将来の業績に関する見通しの作成後に発生する出来事に照らして見通しを更新、修正する意図はなく、またそうした義務を負うものではありません。

### 【参考資料】

本資料はシーメンス AG (ドイツ・ミュンヘン) が2019年11月7日 (現地時間) に発表したプレスリリースの一部を日本語に抄訳したものです。本資料の正式言語はドイツ語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。原文プレスリリースおよび関連資料は以下の URL よりご覧いただけます (英文)。

<https://press.siemens.com/global/en/event/annual-press-conference-2019>

報道関係からのお問い合わせ先:

シーメンス株式会社

コミュニケーション 今村

E-mail: masako.imamura@siemens.com